――蛍に魅せられ――

昔の話、田舎では、ホタル観察は、庭でしたものです。 庭のいたるところで、ピカピカと光を放っていました。ビオトープでは、 蛍の幼虫放流を始めてから15年程になります。

私が、 入会する以前のことですが、 1シーズンで、 延べ400匹以上が、 確認できたそうです。 最近は、 少なくなった蛍を、 探索して観察します。 そうすると、 光を放つ蛍が、とても眩しく感じられます。 自分で発光して、その光で、繁殖相手を求めているのですから。

飼育は、 その蛍を捕獲することから始まります。

3～4週間程で、 水苔に産んだ卵から幼虫になり、 水の中に、入っていきます。

カワニナやモノアラガイなど餌を与え、 水槽の水が汚れたら、天然水と交換です。

3～4回、脱皮をくりかえして4～7mm程に成長した幼虫を10月末に放流し、ビオトープの池で、越冬させます。

8月の初めから10月の末迄の飼育期間は、 淡い光を放つ瞬間を思いながら…蛍飼育日記をつけて過ごす、至福の時間です。

（山親爺）

――やっかいな雑草（ヨシ）の駆除――

令和3年10月14日、 11月17日の両日、 冬の気配を感じながら、 背丈よりはるかに伸びた雑草（ヨシ）をビオトープメンバー（男性、 女性8名）総力で悪戦苦闘しながらも、 心地良い汗を流しました。

ヨシは、 雑草の中でも繁殖力・生命力が強くて、 夏をすぎると高さ2～3m くらいまで成長します。 根は太く、 横に這ってどんどん増えていくので除去が大変・・・頑固そのものです。

毎年夏には、 2か所の池で、 子供たちの自然体験学習があります。 活発に楽しく、 有意義に学んでもらおう・・・と私達も水面の拡大に力を注いでいます。

（田中道江）

――新しい環境科学館――

ビオトープの紹介もできた科学館へ行ってきました。 入口をはいると、 大きな柱にカタクリの花やハヤブサの写真のついた案内があり、 ワクワクします。 その下に並ぶ円形の展示の中に環境問題に関するクイズがありました。「自然」を選ぶと、 1問目に「ビオトープとはなんですか」が出てきて大いに気をよくしました。

準備の段階から関わった「ウオッチングモルエラニ」は、 受付でタブレットを借りて、 空中撮影した室蘭の地図の上を散歩できます。 地図上の QR コードにタブレットをかざすと、 そこにちなんだ画像が現れます。 イタンキでは、 ビオトープの成り立ち、 植物や虫、 魚たち、 子供たちの活動の様子、 そして VR でぐるりと周辺の景色を見渡せました。 他にも、 測量山に来る鳥たち、 イルカやクジラなども見られる楽しい10分間です。大人も子供も楽しく、 また新しく知ることも多いコーナーでした。

（渡辺英子）